

複式学級 第2学年の実践

竹内 嘉奈子

【単元名】「お話を作って、1年生に読み聞かせをしよう」

【教材名】「お話の さくしゃに なろう」(光村図書 2年 上)

1 学級の実態

- ・ 語と語や文と文の続き方に、注意しながら、つながりのある文章を書く力が不十分である。
- ・ 簡単な構成を考えて文や文章を書く力が不十分である。
- ・ 書くことに対して、抵抗感があり、書きたいことをなかなか決めることが難しい。
- ・ 文章を読み返す習慣が身につけておらず、間違いに気づき、正す力が不十分である。
- ・ 複式学級の為、1年生に作品を見せたいという思いが常にある。
- ・ 書く前に、口頭作文をすると、文章を書くことができる。
- ・ 書いた文章を互いに読み合うことが好きだ。

2 言語活動

相手意識	目的意識	場面意識 (公/私)	ジャンル
1年生	お話の作者になってお話を作り、読み聞かせをする。	公的～私的	物語文

3 学習目標

(1) 態度目標

- ・ 想像したことを文章にし、楽しんで書くことができる。
- ・ お話の作者になって絵本を作るという言語活動に対して、興味関心意欲がもてる。

(2) 価値目標

- ・ いろいろなことを自由に想像することができる。

(3) 技能目標

- ◎ 絵を見て、経験したことや想像したことなどから書くことを決め、「はじめ・中・おわり」のまとまりのあるお話を書くことができる。
- 書いたお話を読み返して、誤字、脱字、句読点、助詞、かぎの使い方を正すことができる。

(4) 年間技能目標における位置づけ (◎は重点的に指導)

月	単元	教材	ジャンル	課題	取材	論理	構成	記述	推敲	交流
4	書くことをきめて、しらせよう	今週のニュース	報告文	◎						○
5	きろくしよう	かんさつ名人になろう	観察記録文		◎					
7	お話を作って、1年生に読み聞かせをしよう	お話のさくしゃになろう	物語文				◎		○	
7	本はともだち	お話の国の友だち	紹介文							◎
9	かかりのしごとをしらせよう	どうぶつ園のじゅうい	紹介文		◎					
11	しょうかい文を書こう	友だちのこと、知りたいな	紹介文		◎					
11	分かりやすく説明しよう	おもちゃの作り方	説明文					◎		
1	詩を書こう	見たこと、かんじたこと	詩	◎	○					
3	文集を作ろう	楽しかったよ、二年生	報告文		○		◎			

4 単元構成図

単元名・教材名

お話を作って、1年生に読み聞かせをしよう
「お話の さくしゃに なろう」(光村図書 2年上)

総時数10時間

学習の活動目標

学習目標

第1次 (1時)

※《》は評価規準

今までの学習した物語や読み聞かせをした絵本をふりかえり、学習のめあてを設定し、学習の見通しをもつ。

お話の構成に目を向けさせ、お話づくりをするに関心をもつことができる。
《どんな学習をしていきたいかを考えている。》

第2次 (8時)

おおまかなあらすじを設定し、物語の構成(はじめ・中・おわり)をふまえ、「中」の絵を描く。(本時)

絵から想像を広げ、お話に必要な事柄を集めることができる。
《経験したことや想像したことなどから、書くことを決め、人物の名前・人物がすること・出来事・会話について考えている。》

「はじめ」「中」「おわり」の組立てを考えることができる。
《主人公がどこかに行って帰ってくる構成のお話であることがわかる。》

「はじめ」と「おわり」の絵を見て、お話を想像し、「中」の出来事を想像することができる。
《想像を広げて物語を考え、「中」の部分の挿絵を描こうとしている。》

「はじめ」「中」「おわり」のお話を書き、相互に読み合う。

語と語や文と文の続き方に注意しながら、つながりのある文や文章を書くことができる。
《挿絵に合った「中」の部分を書いている。》
《書き出しのパターンを選び、「はじめ」の部分を書いている。》
《「はじめ」「中」「おわり」の構成を意識して、「おわり」の部分を書いている。》

自分の作品を読み返し、推敲の観点をもとに推敲することができる。
《書いた文を読み返して、間違いなどに気付き、推敲している。句読点の打ち方やかぎの使い方を理解し、正しく使っている。》

できた作品を推敲し、題名をつける。

物語の内容に合う題名を考えることができる。
《読んでみたいと思うような題を考えている。》

第3次 (1時)

書いた作品を1年生に読み聞かせをし、交流する。

友だちの作品と自分の作品のよさに気づき、これからの学習に生かしたいことを学び取ることができる。
《自分や友だちの発表を評価している。》

5 学習活動と指導の実際

第一次・・

①学習内容

今まで学習した物語や読み聞かせをした絵本をふり返り、本単元でどのような学習をしたいかを話し合い、学習の見通しをもつ。(1時間)

②指導内容

「お話の構成に目を向けてお話づくりをしたい。」という子どもの心にある思いを引き出すことができるように、これまでの学習や読み聞かせで使用した物語(お話の絵本)のすきなところを出し合う活動を設定した。また、構成に目が向くように、どんなお話だったか(はじめ・中・おわり)を話すという活動を行った。「はじめ、中、おわりの構成でお話ができていることがおもしろい。」「中で事件が起こって、人物が変わるところがおもしろい。」「私もお話を作りたい。」「私でも作ることができそう。」「中の事件をおもしろくしたい。」という子どもの思いが表出され、学習のめあて「お話をつくって、1年生に読み聞かせをしよう」を設定した。その後、資料1のように学習計画を子どもと一緒に作り、見通しをもった。

【資料1 子どもの学習計画】

《学習計画》

- ① 学しゅうけいかくを立てよう。
- ② お話づくりにひつようなことと、あらすじを考えよう。
- ③ 「はじめ」と「おわり」のおおまかなお話を考えよう。
- ④ 「中」の絵をかこう。
- ⑤ 「中」のお話を考えよう。
- ⑥ 「はじめ」のお話を考えよう。
- ⑦ 「おわり」のお話を考えよう。
- ⑧ 「丸、点、かぎ」のつかい方を知り、お話を読み返して、正しく書き直し、清書しよう。
- ⑨ だいを考えよう。
- ⑩ 1年生に作った絵本の読み聞かせをして、感想を聞こう。
(絵本をプレゼントしよう。)

第二次・・

①学習内容

- (1) おおまかなあらすじを設定し、物語の構成(はじめ・中・おわり)をふまえ、「はじめ」と「おわり」の展開を確認し、「中」の絵を描く。(授業1) (3時間)
- (2) 「はじめ」・「中」・「おわり」のお話を書き、相互に読み合い、お話を書き加える。 (3時間)
- (3) できた作品を推敲し、題をつける。 (2時間)

②指導内容

- (1) 物語に必要な人物設定や場面設定について考えることができるように、これまでに学習した物語のノートを見直し、お話づくりに必要な事柄を出し合い、整理する活動を行った。物語の構成が「はじめ」「中」「おわり」になっており、「はじめ」と「おわり」の絵から、主人公がどこかに「行って」「帰ってくる」という時間が経過していく話であることを捉えさせるために、「はじめ」と「おわり」

の絵を比べる活動を行った。「中」の事件をおもしろくしたいという思いを表現することができるように、事件が起きて人物の気持ちや行動が変化する点にお話の「中」のおもしろさを感じていたことをふり返った。「中」の出来事をしっかりと考えさせるために、以下の活動をした。①出来事の絵を描いた②描いた絵について口頭作文をし、学習ペアで聞き合い、質問やアドバイスをする交流活動をした。③膨らんだ考えをメモに書き加える活動を行った。

(2) 「はじめ」「中」「おわり」のお話の表現を工夫できるように、これまでの学習や読み聞かせで使用した絵本(物語)や教科書の「はじめ」「中」「おわり」の例(資料2)を提示し、書き出しや表現の工夫を出し合う活動を行った。(資料3、資料4)そして、どの工夫を使って書くか決め、お話を書くようにした。書き終わった後は、ペアで読み合わせ、質問やアドバイスをし、お話を書き加えた。

(3) 自分の作品を推敲できるように、教科書のコラムを読み、句読点やかぎの使い方を学んだ。また、誤字・脱字については、誤字・脱字のあるスイミーのはじめの部分の提示し、間違いを訂正する活動を行った。そして、推敲の観点を整理する活動を行った。子ども達が見つけた観点にもとづいて、自分で推敲し、ペアで作品を交換し、書き直す点を教え合う活動を行った。

題を工夫できるように、これまでの学習や読み聞かせで使用した絵本(物語)の題を仲間分けし、自分たちの作品を読み直し、題を考える活動を行った。(資料5)

【資料2 提示したお話の書き出しの一部】

<p>あおくみかいとおくのうみに、一びきのさかながすんでいました。なみのさかなじゃない。うみじゆうさがしても、こんなにきれいなさかなはいなかった。にじのように、さまさまな色がある。あおとみどりとならまきのうみ。そのなかにきらきらかかやくみのうみ。ほかのさかなたちはめをみはった。そして、かれをにじとおとよんだ。</p> <p>「おいでよ、にじとお。いっしょにあそぼう。」</p> <p>だが、にじとおはたすいすいとありすまのうみへんじもせず、とくくいなって、うみをまきまきさらさけて。</p>	<p>むかし、ある山おくに、まごりのおつながすんでいました。山おくのいけんやなので、まごりのようにたぬきがやってみて、いたすらきました。</p> <p>そこで、まごりはわなをしかけました。</p>	<p>広い海のどこかに、小さな魚のまごうだいたちが、たのしくくらして、いたみんな、赤いのに、一びきだけは、からす目よりもまっくら。およくのは、たれよりもはやかかった。</p> <p>名前が、スイミー。</p>	<p>ほくは、のボクボクです。いもつどのブクブクといっしょにくらしています。</p>	<p>あるところに、ムッシューという名前の虫がいました。ムッシューは少しきの森でくらしています。</p>	<p>「たんけんに出かけよう。」</p> <p>と言って、中くんは、野原へ出かけました。</p>	<p>びこたんは、びこびこ虫の男の子です。びこたんは、少しきの虫です。にんげんのごとはをばなすことができます。</p>
--	--	--	--	--	--	---

【資料3 子どもたちと整理した既習表現】

ある日(ある〇〇)
 〇〇のような、〇〇みたいな
 どうしてかという、〇〇だから
 つなぎ言葉・はじめに、つぎに、それから、おわりに、そして、それから、だから、しかし、すると
 会話「 」を入れる。

【資料4 子どもたちが整理した書き出しのパターン】

- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・自分のしょうかい ・むかしばなしのようなはじまり | <ul style="list-style-type: none"> ・人物が話したことば ・人物が話しているように |
|--|--|

【資料5 子どもたちが整理した題名のパターン】

(子どもたちは、自分の読んだ絵本の題名は「主人公の名前+したこと」が多かったことに気付いた)

- | | |
|--------------|-------------------------|
| ・主人公の名前 | ・出てくる物の名前 (お話のポイントになる物) |
| ・主人公の名前+したこと | ・主人公の名前+物 |
| ・主人公がしたこと | |

第三次・・

① 学習内容

書いた作品を1年生に読み聞かせをし、交流し合う。 (1時間)

② 指導内容

自分の作品のよさ、お話作りの楽しさや達成感を感じられるように、できあがった作品を絵本にし、1年生に読み聞かせ、感想をもらい、自己評価を行う活動を設定した。

【資料6 読み聞かせ後の子どもの感想】

- | |
|---|
| <p>C1 : 初めてお話を作って楽しかったです。1年生に喜んでもらってよかったです。今まで、読んできた絵本みたいな本ができました。「はじめ」「中」「おわり」のまとめりに考えると、考えやすかったです。</p> <p>C2 : 1年生が喜んでくれてよかったです。1年生に見てもらってから、何度も自分の書いたお話を読み直しました。読み直したら、いっぱい間違いがありました。これからお話を書くときは、もっと読み返しをしたいと思います。お話を考えるのは、とても楽しかったです。「はじめ」「中」「おわり」と考えるのが考えやすかったです。</p> |
|---|

6. 授業の実際

授業1 構成の指導について

(1) 授業の計画

教師の手だて



想像が膨らんでいない絵と口頭作文の見本を見せ、質問やアドバイスの仕方がわかるようにする。

聞き手が想像できるように、絵を見せながら口頭作文させるようにする。

膨らんだ考えを絵とメモに書かせ、はじめの絵やメモと比べさせ、想像に広がりが出たことをとらえられるようにする。

【本時でつきたい力】

構成（はじめ・中・おわりの「中」）を意識して、自由に想像を膨らませることができる。

【本時の言語活動】

ペアで話し合い、想像したことを絵とメモに書く。

【本時の活動計画】

① 本時の学習課題を把握する。

中の絵を かこう。

② 「中」の出来事の絵を描く。

- 簡単な絵を描く。
- 想像したことをメモに書く。

③ 描いた絵について口頭作文をし、ペアで話し合う。

- 話し手は、絵を見せながら口頭作文をする。
- 聞き手は、質問やアドバイスをする。
- 話し手は、質問に答える。

④ 膨らんだ考えを絵とメモに書き加える。

- 登場人物が話した言葉を書かせる。
- 話し合っって思いついたことを絵に描き、メモを書く。

児童の意識の流れ

人間に踏まれている友だちを助ける話の絵を描こう。



どうやって友だちを助けるのかな。ペアで話し合ったら、新しい考えが生まれたよ。



中の出来事がくわしくなったな。



早く中を書きたいな。順序を考えて書こう。



(2) 授業の実際

① 本時の学習課題を把握する

「前の時間までに、あらすじを考えましたね。今日は、何をしますか。」と尋ねると、「中の絵がないから、中の絵を描きます。中の事件をおもしろくしたいです。」と答えた。そこで、「どんな絵を描こうと思っているんですか。」と尋ねると、「ミーちゃんの友だちが人から踏まれてしまう絵。」「キーちゃんのお父さんとお母さんが、人間に捕まえられて、キーちゃんが助けに行く絵。」と答えた。そこで、本時の学習課題「中の絵をかこう」を設定した。子どもたちは、本時の課題を理解し、早く中の絵を描きたいという思いをもつことができた。

② 「中」の出来事の絵を描き、メモを書く

中のお話を詳しく想像させることに重きを置き、絵は鉛筆で簡単に描かせ、口頭作文させた。子どもたちは、右のような簡単な絵(図1)を描いた。しかし、絵を描くだけで満足してしまい、口頭作文をさせても、あらすじと同じことを話した。メモには、①で話したあらすじが書かれているだけであった。あらすじを絵や言葉にただけで、想像を十分に広げられていなかった。絵を描き口頭作文をするだけでは、想像が十分に広がらないことがわかった。そこで、描いた絵について口頭作文をし、ペアで話し合う活動(③)を設定した。

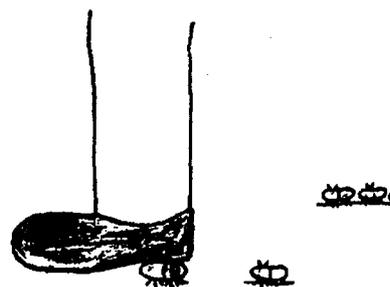


図1 話し合い前の絵

③ 描いた絵について口頭作文をし、ペアで話し合う

教師が考えた中の絵を提示し、「先生も中の絵を描きました。中のお話を詳しく考えたので、絵を見ながら聞いてください。むっちゃんは、池の中に落ちて宝を見つけました。」と話をした。すると、子どもたちは、「全然、詳しくない。おもしろくない。」「どうして、池の中に落ちたんですか。」「宝を見つけて、どうしたんですか。」「先生の絵の中には、もう一匹虫がいるから、その虫のことも説明したほうがいいですよ。」など、いろいろな質問やアドバイスを出してきた。「みんなが質問やアドバイスをしてくれたから、先生の中のお話が詳しくなりました。ありがとう。」と伝えると、子どもたちは「ぼくたちも質問やアドバイスしようや。詳しくして、おもしろい事件にしようや。」と発言した。そこで、以下のことを確認して話し合う活動を設定した。

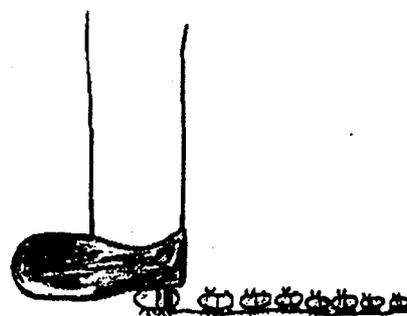


図2 話し合い後の絵

- 話し手は、絵を見せながら口頭作文をする。
- 聞き手は、質問やアドバイスをする。
- 話し手は、質問に答える。

資料7のように話し合ったことで、図2のように絵が詳しくなり、中のお話を十分に想像することができた。ペアで話し合う前に、教師がモデルを示すことで、どのように質問すればよいのか、アドバイスをすればよいのかが、子どもたちに理解させることができた。そのため、ペアで話し合いを進めることができた。描いた絵を使ったことで、質問やアドバイスをする側も想像が膨らみ、口頭作文で話していない絵の内容について質問したり、アドバイスしたりすることができた。

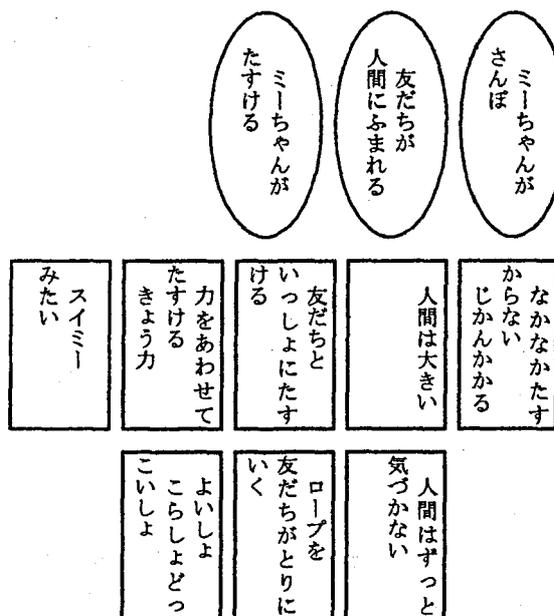
T ペアさんに絵を見せながら、お話をしましょう。
絵を見た人は、ペアさんに質問したり、アドバイスをしたりしましょう。

- C3 ミーちゃんは、友だちのぺっちゃんが人間に踏まれて、助けに行きました。
- C4 他の虫がいるけど、この虫たちはなんですか。
- C5 友だちの虫です。ミーちゃん一人では、助けられなかいから、友だちを呼びに行くから、ここにいます。
- C6 わかりました。友だちの虫と一緒に助けたんですね。どうやって、助けたんですか。
- C7 踏まれている友だちにロープを巻いて、助けました。
- C8 みんなで、ロープをひっぱったらいいと思うんだけど。
- C9 そうだね。みんなで力を合わせてロープを引っ張ったらいいよね。
- C10 でもさ、そのロープは、どうしたんですか。
- C11 友だちがロープを取りに行きました。
- C12 みんなで、ロープを引っ張るとき、なんか言うんですか。大きなかぶみたいに「うんとこしょ。どっこいしょ。」とか「せーの。」とか。
- C13 「よいしょ。こらしよ。どっこいしょ。」って言ってます。人間が重いから。
- C14 人間は、虫を踏んでいることに気付いているんですか。
- C15 虫は小さいから、人間は気付いてません。人間が気付かないままです。
- C16 虫は小さいから、虫にとっては人間の足はそうとう大きいよね。アリエッティみたいな感じやろうね。
- C17 ミーちゃんの友だちもミーちゃんも怖いと思いながら、助けてます。友達やけ、絶対に助けんといけん。力を合わせんといけんのよ。スイミーみたいに。

資料7 話し合う様子

④ 膨らんだ考えを絵とメモに書き加える

③の描いた絵について口頭作文をし、ペアで話し合う活動の後、膨らんだ考えを絵とメモで書き加える活動を行った。図2と資料8のように、絵を描き加え、メモが増え、中のお話が詳しくなった。丸は話し合う前のメモ、四角は話し合った後に書き加えたメモである。(資料8) こどもたちも、「中のお話が詳しくなったから、次の時間は、中のお話がすらすら書けそう。」「早く、書きたい。」という思いをもつことができた。



資料8 メモ

7 実践のまとめ

(1) 成果

価値目標

- ・ いろいろなことを自由に想像することができる。

お話を自由に想像するために、中の絵を描き、絵を見ながらペアで質問したり、アドバイスしたりする活動を行った。想像することが苦手だった子どもは、自分から想像を膨らませるようになった。これまでの学習に比べ、自由に想像をすることができた。また、自由に想像することの楽しさを味わうことができた。絵を描きペアで話し合う活動が、いろいろなことを自由に想像するために有効であった。

態度目標

- ・ 想像したことを文章にし、楽しんで書くことができる。
- ・ お話の作者になって絵本を作るという言語活動に対して、興味関心意欲がもてる。

作った本を1年生に対して読み聞かせをする活動を入れたことで、相手意識・目的意識が明確になり、意欲的にお話づくりに取り組めた。想像を膨らませる時間をしっかりと取り、既習事項をふりかえりながら学習したことで、自分の書きたいことがわかり、物語を書くことを楽しむことができた。

技能目標

- ◎ 絵を見て、経験したことや想像したことなどから書くことを決め、「はじめ・中・おわり」のまとまりのあるお話を書くことができる。
- 書いたお話を読み返して、誤字、脱字、句読点、助詞、かぎの使い方を正すことができる。

「はじめ・中・おわり」を意識して、お話を書くことができた。教師がねらった構成を意識してお話を書くということが、子どもの自己評価にもきちんと表された。この単元に入る前から、構成がはっきりとした絵本の読み聞かせを行い、中の転換の面白さを味わわせたことで、構成を意識し、お話を書くことができた。既習のお話をふり返りながら学習したことで、「はじめ・中・おわり」の表現の工夫ができた。子どもたちが推敲の観点を見つけ、整理してから推敲したことで、推敲をする習慣がつけはじめた。また、読み手を1年生にしたことで、誤字や脱字などがない文章を書こうという思いが高まり、何度も自分の文章を読み直し、訂正することができた。既習事項を想起させながら、学習を進めることがお話づくりの学習に有効であった。

(2) 課題

- ・ 書く学習では、物語文しか構成を意識していない。他のジャンルでも、構成を意識して書けるようにする。

(3) 単元を終えて

書くことについての年間計画を立てたことによって、学習に行かせる絵本を事前に意図的に読み聞かせした。子どもたちは、読み聞かせした本を参考にして物語文を書いていた。これまで、深く考えずに毎日行っていた読み聞かせが、どんな本をどんな時期に読ませるかを考えて、絵本の読み聞かせをするようになった。書くことについての年間計画だけでなく、読み聞かせについての年間計画を立てるよう

になった。単元に入る前に、単元に関係する図書にどれだけ出会わせておくかによって、子どもの興味関心や表現に影響することがわかった。この単元の前にある読み単元「スイミー」の構成や表現を「お話のさくしゃになろう」に生かそうと考えて、「スイミー」の読みの学習に取り組んだ。物語文の「読むこと」と「書くこと」を関係付けながら、指導するという意識が変わった。

複式学級であるため、1時間の終末に合同で学習のふりかえりをしていた。この単元を学習した2年生が構成を意識するようになったことで、同じ教室にいる1年生も構成（はじめ・中・おわり）を意識するようになった。作文を書くときに、「はじめ・中・おわり」で書きたいという思いをもつようになった。